視察成果報告書

令和5年 10月 10日

犬山市議会
議長　柴田 浩之　様

議員名　畑 竜介

下記のとおり、視察の成果を報告いたします。

(1) 視察年月日	令和5年10月2日(月) ～ 令和5年10月3日(火) (　1泊　2日)
(2) 視　察　地	岡山県総社市及び兵庫県豊岡市
(3) 視察の種類	多文化共生～外国人防災リーダー育成～　～多文化共生推進プラン策定～
(4) 視察成果 (視察地ごとに記入)	別紙
(5) 犬山市に対する提言	別紙

犬山市議会
受付
5.10.10

岡山県総社市
令和５年１０月１日

テーマ「総社市外国人防災リーダー養成研修について」

〇総社市概要
人口は６９，１５１人と犬山市と人口規模は似通っているが、面積が犬山市の３倍ほどあるため人口密度としては低い。また、犬山市との違いは人口減の当市に対して、総社市は1.7%ほどだが人口は増えている。
外国人に関しては、人口比率で2.1%となり3.2%の当市よりは若干少ない。

〇総社市多文化共生の背景
総社市には三菱自動車などの自動車部品工場集積地があり、多くのペルー人やブラジル人が雇用されていた。
しかし平成２０年のリーマンショックにより、非正規雇用が多かった外国籍の方々が大量に解雇され、それに伴う外国人の就労・住宅・医療・保険・教育など多岐にわたり多大な影響が出ていたため、平成２１年に市役所内に国際・交流推進係を設置、現在に至る。

〇多文化共生に対する取り組み
① 外国語版広報誌の作成・全世帯への配布
(ポルトガル語・中国語・ベトナム語・やさしい日本語)
② コミュニティ交流事業
外国人のコミュニティ組織である「総社インターナショナルコミュニティ＆桃太郎インターナショナルアソシエーション」日本人市民のコミュニティ組織との協働で年に１度、日本人と外国人との交流イベントの開催。
③ 日本語教育事業
文化庁の「生活者としての外国人の為の日本語教育事業」を受託して、毎週日曜日に市役所にて日本語教室を開催。令和元年度からは市の財源による事業運営として継続。
④ 外国人防災教室の実施
平成２２年度より総社市防災訓練に外国人市民も参加。また協定を結んだ国際的医療・救援系NGOであるAMDAグループの協力により、「外国人向けの防災訓練」も実施。
現在まで毎年開催される総社市防災訓練には、外国人市民も参加し日本人市民と共に防災について学んでいる。
⑤ 外国人防災リーダー養成研修
現在は８か国４３名が防災リーダーとして活躍しており、今では市主催の防災訓練において土のうつくりを市民にレクチャーするなど「支援する側」としての外国人の方々の活動が始まっている。

〇視察に対する総括・提言
犬山と違うのは外国籍の方々が自主的に地域社会に溶け込んでいこうとしているところ。

今回のテーマである「外国人防災リーダー養成研修」や日本社会の一員として自立し、互いに助け合い、積極的に交流する為の「総社インターナショナルコミュニティ＆桃太郎インターナショナルアソシエーション」としての活動も外国籍の方々の能動的な行動(支援する側になりたい！一市民として地域の役に立ちたい！との想い)からスタートしている。
この様な活動を可能にする為のキーは「人」。
総社市にはダンさんというブラジル人の「正規職員」がいる。
彼が圧倒的なキーマンとなり、外国籍の方々のお宅を１件１件訪問し、そこからの口コミマーケティングにより、公のコミュニティが出来ている。
犬山市にも外国籍のコミュニティはあるが、なかなかそこが公と繋がる事が出来ない現状もある。
犬山市としても、総社市の様に外国人コミュニティと交流を進めることは当然のことだが、国を超えた在住外国人のコミュニティの創出が不可欠である。
そのためには、今いる犬山市の外国籍職員を専門職としての正規雇用に切り替え(当然本人の意向もあるが)、担当課だけでなく全庁的に取り組むべき。
多文化共生は全庁的に影響のある事であるため、外国籍職員の正規雇用に併せて専門的な部署を新設することも考える必要がある。
また、防災訓練に関しては外国人市民にも声をかけ、協働で訓練が出来る環境を作る必要がある。

兵庫県豊岡市
令和５年１０月２日

テーマ
「NPO法人にほんご豊岡あいうえお」
「豊岡市多文化共生推進プラン2021-2025」

〇豊岡市概要
人口は８２，０３７人と犬山市に比べて多いが、面積は１０倍ほどある。人口の減衰率は当市よりも高く、自然増減率だけでなく社会増減率もマイナスになっている。
外国人市民人口は犬山市２，３８３人に対して、１，０３６人と少なく見えるが、今回の視察先でもある城崎地区に外国人人口が集中しており、比率にすると５％を超えておりこの地区だけ見ると当市よりも外国人市民が多い。

〇「NPO法人にほんご豊岡あいうえお」について
当市の多文化共生の一翼を担って頂いているシェイクハンズさんとの交流もあるという事から、日本語教室の現地視察に伺った。

・活動内容
　日本語教室の開催
　地域の人との交流(花見や餅つき大会など)
　防災セミナーの開催
（外国人の方は防災についてのストック情報がないため、防災についてそもそも論から説明する必要がある）
　外国にルーツを持つ子供とその家族の支援
　誰もが集える居場所づくり

〇現在の課題
阪神淡路大震災を経験し、市を超えた県域での連家の必要性を実感。
兵庫県は南北にわたるため、北部である但馬地域は神戸市などからも遠く、地域で連消して対応しなければならないが、但馬地区全体でのネットワークは出来つつある。
しかしながら、各団体ともに人員の確保が急務である。
あいうえおさんでも、雇用は１人であり残り２０人はボランティアにお願いをしている状況。

〇「豊岡市多文化共生推進プラン2021-2025」について
プラン策定に向け２０１９年より神戸大学と共同研究を開始し、「害個人住民に関する調査研究」を実施している。
外国人住民と事業所についての調査や、外国にルーツを持つ子供についての実態調査

など。

〇市役所での対応
リビングガイドを７か国語で対応
防災ハンドブックの作成
通訳、多言語映像通訳や翻訳アプリでの対応
市役所内での横断的な取り組みの為、関係課により構成する連絡会議（年２回）を設置して、進捗状況の把握と事業推進を図っている。
（秘書広報課・危機管理課・窓口サービス課・こども未来課・社会福祉課・環境経済課・学校教育課・幼児育成課・豊岡消防署）

〇視察に対する総括・提言
多文化共生を真に実現するには、外国人市民への支援やサポートだけでなく、われわれ日本人市民の意識や気持ち受け入れ態勢の構築が必須だと感じる。
その点に関して、豊岡市では多文化共生推進プランに沿って、日本人市民へもアプローチされている。具体的には、日本語学習者の疑似体験などを通じて外国人市民の方々の気持ちに寄り添う仕組みがあった。
非常に印象的であったのが、外国人市民の思っている事として、日本人と仲良くなりたい・他国の人と仲良くなりたい・地域の行事に参加したい・防災の事を知りたい等、外国人市民の方々は積極的な思いがある事、そしてわれわれ日本人はそれに気づいていないことが多々あるという事。
われわれ受け入れる側の気持ちひとつで、現在課題となっている地域の担い手や、町内会運営等にも大きな改善が図れるヒントがある様に思う。
支援することも大切だが、自立した外国人市民を受け入れるための日本人市民へのアプローチが必須である。